



「1回15分まで」というルールを守って楽しく利用しています。

楽しみながら情報機器に触れる

児童館へ新たにノートパソコンを設置

中央児童館・本町児童館・押野児童館の3館に新たにノートパソコンが設置されました。これは、市内で人材コンサルタント業を営む株式会社サンライズプランから「子どもたちがパソコンへ興味を持つきっかけになれば」と寄贈いただいたものです。パソコンにはさまざまなソフトウェアがインストールされており、タイピング練習やゲーム、DVD再生など、思い思いの利用ができます。中央児童館を利用する子どもたちは「運動もパソコンも選べて楽しい!」と喜んでいました。

市制10周年を記念して初の単独公演

吟剣詩舞で綴る 北国街道物語

10月10日(日)、市伝統芸能吟剣詩舞会が市制10周年を記念し「吟剣詩舞で綴る 北国街道物語」を文化会館フォルテで開催。会場には約300人が訪れ、伝統芸能の世界を堪能しました。公演名でもあるオリジナルの構成演舞では、北国街道を取り巻く人々の営みや想いが「白山を望む」「あゝ七尾城」「安宅の関」などの演目で剣詩舞に乗せて綴られました。また、県内の吟詠・剣詩舞団体などの賛助出演や「ののっ太鼓 小嵐」による太鼓演奏の披露もあり、会場を大いに湧かせました。



同会は、野々市・郷・富奥公民館で日々稽古に励んでいます。



エド、また野々市に遊びに来てね～!

英語と日本語で最後のCHAT!

国際交流カフェ

国際交流員エドワード・ミルナーとの交流イベント、国際交流カフェが9月25日(土)に、にぎわいの里のいちカミーノで開催されました。14人が参加し、世界の話に花を咲かせました。エドは9月末で任期満了を迎えたため、これが最後のイベントとなりました。別れを惜しむ参加者に、エドからこれまでの感謝が述べられました。平成29年に野々市初の国際交流員としてイギリスから来市して以来、市民の異文化理解や外国人住民の支援に尽力した4年間でした。



教材研究を行うことは自らの学びにもつながっているそうです。

持てる知識と技能を地域に生かす

夏休み学習応援・おもしろ教室指導者の会

市シルバー人材センターでは退職教員である会員の知識や経験を生かした取り組みとして、小学3～6年生を対象にした夏休み中の学習教室を平成27年から行っています。元教員18人で、国語、理科、算数の特別授業と夏休みの宿題サポートを市内5小学校で実施。今年は計200人が参加しました。9月17日(金)には来年度の教室に向けた教材研究会があり、代表の松本哲幸さんは「授業を通して子どもたちに学ぶ楽しさを伝えていきたい。」と意気込みを語りました。

まちの話題 Focus

皆さんの周りの楽しい話題やイベントなどの情報を教えてください。
市民協働課 ☎ 227-6056

市民が輝きを放つまちへ

まちづくりシンポジウム in 野々市

市になって10周年の節目となる今年、これまでの市民協働のまちづくり活動を振り返りながら、今後の市民主役のまちづくりについて考えるシンポジウムを文化会館フォルテで10月2日(土)に開催しました。第1部の基調講演では、山田准教授(金工大)がドイツの事例を交えながら、地域の「物語」(共通の利益や条件)を住民が協力して紡いでいく、市民が主体のまちづくりを紹介。第2部では、魅力的なまちをつくる“ヒト”と“コト”のシンフォニーと題し、市民協働のまちづくりを最前線で実践してきた4人のパネリストとディスカッションを行いました。この日参加した80人は、市の行く末に光を感じたのではないのでしょうか。



当日の様子を市公式YouTubeチャンネルで見ることができます。



山田圭二郎氏の基調講演

活動を紹介した4人のパネリスト

1の1校歌「一から」を披露する大谷内氏



贈られたマオリ族伝統衣装の「コロワイ」を着用する栗市長。



ギズボーンの皆さん

また会える日まで画面越しの交流

姉妹都市ギズボーンとのオンライン交流会

ニュージーランド・ギズボーン市と野々市市は平成2年から姉妹都市として交流を続けています。新型コロナウイルスの影響で相互の訪問ができなくなっている中、9月29日(木)に両市長がオンラインで会談を行いました。レハット・ストルツ市長は「ギズボーン市民は野々市に行くことを楽しみにしている。コロナが落ち着くまでは、オンラインを活用して交流していきましょう」とあいさつ。お互いに準備したビデオレターや贈り物の交換を通して、親交を深めました。

にゃんとも不思議ななぞを追え!

103匹のとらネコ作戦

10月9日(土)、ボランティアガイドののいち里まち倶楽部が、旧北国街道である本町通りに残されたネコの謎をたどるイベントを開催しました。昨年、御園小の6年生103人が授業で提案したにぎわいづくりのアイデアを実現したもので、タイトルの「103匹」には103人の子どもたちの人数を重ねました。参加した約50人の児童たちは、照台寺の「虎猫御書」にまつわる紙芝居や、通りの民家に残る「猫面瓦」探しなどを通して、通りに残されたまちの歴史を楽しく学びました。



訪れた場所に手作りの黄色い肉球マットを置きました。